

東アジア文化都市
2016 奈良市

基本構想

2015年5月

1 : 構想趣旨

(1) 東アジア文化都市 とは

「東アジア文化都市」は、日本・中国・韓国の3か国で、文化による発展を目指す都市を各国1都市選定し、それぞれの都市が1年を通じて行うさまざまな文化イベント等で交流を深める国家プロジェクトとして、2014年から取り組まれています。現代の芸術文化や伝統文化、多彩な生活文化に関連する様々な文化を通して、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることをめざします。

また、開催都市は、その文化的特徴を生かして、文化・クリエイティブ産業・観光の振興を図り、継続的に発展することをめざします。

選定都市について

	日本	中国	韓国
2014年	横浜市	泉州市	光州広域市
2015年	新潟市	青島市	清州市
2016年	奈良市（候補都市）	（未定）	（未定）
2017年	京都市（候補都市）	（未定）	（未定）

注）毎年開催される日中韓文化大臣会合によって、翌年の開催都市が正式決定される。

(2) 「東アジア文化都市2016奈良市」 事業主旨

diversity（多様性）と inclusion（包摂性）

奈良は、日本という国の制度が初めて整った地というばかりでなく、シルクロードを通じて東アジアの文化が渡来した、歴史的・文化的な意味をもった都市です。古都奈良は、世界に門戸が開かれた進取の気風に満ち溢れた国際交流都市でした。1300年前に花開いた天平文化の高い芸術性、精神性は、中央アジアから東端の日本に至る雄大な空間と時間、多様な人々の営みと文化交流の結晶でもありました。そして、diversity（多様性）と inclusion（包摂性）をもって、世界と向き合ってきました。その気風は現在の奈良にも脈々と息づいています。

coexistence（共生）

人々は奈良の地が持つ懐の大きさの中で、自然や歴史、文化を大らかに調和させてきました。それはあたかも人の手を経ないで成ったもののようにも思われがちですが、実は長い年月をかけて造られてきたものです。美しい自然、鹿、悠久の歴史、国宝の建築物や正倉院の宝物、信仰…これらが緩やかなまとまりの中で対立することなく、調和が保たれ、世界に類を見ない姿を現出しています。それは奈良の重層的な歴史の中で、生活文化と融合し、共生の風土として根付いてきました。

tolerance（寛容）

私たちはこの姿を世界に発信できる奈良の強みと考えます。対立の構図が際立ち、紛争の火種があちこちで燻っている現代社会に対して、「東アジア文化都市」奈良市は自らの価値を再発見し、その寛容の精神を、アートをツールとして果敢に訴えていきます。

(3) 東アジア文化都市 2016 奈良市

ー テーマ 「古都奈良から多様性のアジアへ」

「東アジア文化都市 2016 奈良市」では、主に「舞台芸術」「美術」「食」を切口に、アジア諸地域の文化的共通性を確認し、発信していきます。グローバル化による世界の均質化・同質化の波が押し寄せる現在、アジアの諸地域は自らのアイデンティティと文化をあらためて見つめ直すなかで、同じように格闘する様々な地域とつながり、交流することを通して自らの文化を育み、あらたな展望を切り開こうとしています。日本各地のみならず、アジア諸地域で活発に開催されている芸術祭や芸術文化による地域づくりはそうした企図をもって取り組まれています。

本事業では、古都奈良の開かれた精神性を礎に、各都市で行われている様々な芸術祭・地域づくりの取り組みをつなぎながら、アジアの共通性と多様性を明らかにしていきます。

異なる文化間の絶えざる交流の中に創造力の源泉があります。古都奈良はアジア各国の人々とこの事業を通じて広く深くつながり、それぞれの文化を尊重しながら、伝統と創造を響かせ、アジアの平和構築をめざします。

2:事業概要

(1) 事業構成

東アジア文化都市事業の柱となる「基幹事業」、中国・韓国の文化都市と共に開催する「交流事業」、奈良の既存のポテンシャルを生かす様々な事業連携させて発信する「連携事業」で構成されます。

基幹事業は主に「舞台芸術」「美術」「食」に種別し、それぞれのジャンルに専門ディレクターを配し、作品やプログラムの質を高めます。

交流事業では、民俗芸能や、音楽、学術研究といった複合的なプログラムを展開します。複層的に様々なジャンルが影響しあって醸成される文化を立体的に発信します。

連携事業では、古都奈良の魅力を生かすため、文化的ポテンシャルの高い既存事業や博物館・美術館等の企画展、各社寺の伝統行事などと連携を図ります。

	ジャンル	想定内容(案)	狙い
基幹事業	舞台芸術	日本が誇る現代演劇等の上演 数組の劇団を招聘	集客・発信
		中高生の創作演劇	次代の奈良、教育、参加性
		創作オペラの上演	創作・発信
	美術	奈良の魅力を発信する場所でのインスタレーション 世界的なアーティストを招聘	集客・発信
		まちなかプロジェクト	市民参加
食	食文化のルーツをテーマに展開 お茶、お菓子、漬物、酒、饅頭、うどん等	市民参加、市民交流	
交流事業	オープニング	開会セレモニーと記念シンポジウム	事業開始を全国に発信する。
	期間中	アジア各国の伝統芸能の公演と交流	地域間交流
		アーティスト・イン・レジデンス 姉妹都市交流プログラム 等	
	クロージング	閉会セレモニー	事業の締めくくりと次回開催都市のアピール
連携事業	企画連携	なら国際映画祭 春日野音楽祭、平城京天平祭等	文化的ポテンシャルの高い既存事業と連携し奈良の魅力を重層的に発信する。
		博物館・美術館等の企画展 各社寺での伝統行事	
	広報連携	相互広報活動	相乗効果を期待

(2) 事業規模（概算）

「東アジア文化都市 2016 奈良市」の事業費としては、実行（準備）委員会が支出する経費として以下の事業費を見込みます。

[収入]

単位：千円

費目		平成 27 年度	平成 28 年度	備考
負担金収入	国庫支出金	30,000		オープニング委託費
	国庫支出金	29,500	100,000	文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業・補助金（平成 27 年度ベースで概算計上）
	市支出金	35,500	155,000	
合計		95,000	255,000	

[支出]

単位：千円

費目		平成 27 年度	平成 28 年度	備考
事業費	基幹事業	40,000	180,000	「舞台芸術」、「美術」、「食」等主要事業
	プレイベント	3,000		企画発表会
	オープニング	36,000		開会セレモニー、記念シンポジウム等
	クロージング		10,000	閉会セレモニー
	交流・連携事業		14,000	交流・連携イベント
広報宣伝費		10,980	20,000	広報宣伝費
事務管理費		5,020	31,000	事務費、運営費
合計		95,000	255,000	

(3) 事業スケジュール

2016年に実施される様々な事業全体を「東アジア文化都市 2016 奈良市」として実施し、その中でも発信性の高い事業を開催する2か月程度をコア期間と定めて、集中的に事業展開及び広報を行います。

2015年5月 準備委員会立ち上げ（基本構想承認）

9月 実行委員会立ち上げ（実施計画承認） ※ 日中韓文化大臣会合 後

10月 企画発表会

2016年1月—12月（開催期間）

・オープニング：1月—3月

オープニングイベント自体への集客よりも、東アジア文化都市2016が奈良市で開催されることを全国に発信することを目的として開催日、時期、内容を定めます。

※ 内容案 | アートパフォーマンス、シンポジウム、伝統芸能交流

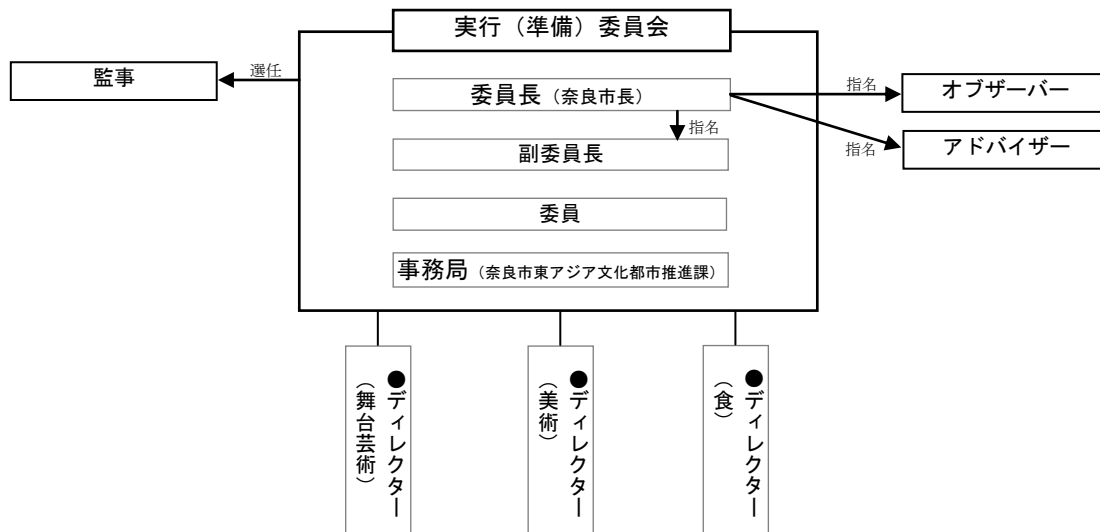
・コア期間：9月—10月初旬

・クロージング：12月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
基幹事業・交流事業			1日 オープニング (予定)						←→ コア期間 (予定)			クロー ジング (予定)
			←			交流&制作期間			→			
連携事業	若草山焼き	珠光茶会・なら瑠璃絵			平城京天平祭「春」			なら燈花会 平城京天平祭「夏」	なら国際映画祭	春日野音楽祭 正倉院展 平城京天平祭「秋」		

(4) 推進体制

奈良市全体で取り組むため、実行委員会を立ち上げ、舞台芸術や美術等専門性の高い分野においては、ディレクターを設けます。



- ・ 実行（準備）委員会：事業計画に関すること、予算及び決算に関すること、規約の改廃に関すること、その他の必要な事項を決定する。
- ・ オブザーバー：事業を円滑に進めるための支援を行う。
- ・ アドバイザー：多様なジャンルの文化事業を総合的に実施する東アジア文化都市事業全体について専門的な見地からアドバイスを行う。
- ・ ディレクター：舞台芸術や美術等各事業の実施のための指揮・監督を行う。

3：支援者（サポーター）

基幹事業に関わる作品の制作、コア期間中の運営、交流事業で来日したアーティストたちの受け入れや、連携事業の主催者等、奈良市全体で取り組むべく、多様な支援者ネットワークの構築に向け、研修会やワークショップ等を開催します。

本事業を支援する地元のサポーターを育成するとともに、国際サポーターを積極的に呼びかける等、本事業をきっかけに内外に多くの奈良ファンを作り、将来の奈良を支えるネットワークに繋がります。